



アラーム

この章では、Serviceability アラームについて説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [アラームの概要 \(P.3-2\)](#)
- [アラームの設定 \(P.3-3\)](#)
- [アラーム定義 \(P.3-3\)](#)
- [アラーム情報の表示 \(P.3-3\)](#)
- [アラーム設定のチェックリスト \(P.3-4\)](#)
- [参考情報 \(P.3-5\)](#)

アラームの概要

Cisco Unified CallManager Serviceability のアラームでは、アラームとイベントの設定、およびアラーム メッセージ定義を行うことができます。どちらの機能も、システム管理者やサポート担当者が Cisco Unified CallManager の問題をトラブルシューティングする際に役立ちます。

アラームを使用すれば、Cisco Unified CallManager システムの実行時の状況と状態を表示して、問題を解決する修正処置をとることができます。たとえば、電話機が登録済みで機能しているかどうか判別できます。アラームには、説明や推奨の対処法などの情報があります。また、アラームの情報には、アプリケーション名、マシン名、およびクラスタ名が含まれているため、ローカル以外で起こった場合でも Cisco Unified CallManager の問題をトラブルシューティングするときに役立ちます。

アラーム インターフェイスを設定する際には、アラーム情報を複数の宛先に送信することと、それぞれの宛先に固有のアラーム イベント レベル (Debug から Emergency まで) を指定することができます。アラームの転送先には、Syslog Viewer (ローカルの syslog)、Syslog ファイル (リモートの syslog)、SDI トレース ログ ファイル、SDL トレース ログ ファイル (Cisco CallManager および CTIManager の場合のみ)、またはこれらすべての宛先のいずれかを指定できます。サービスがアラームを発行すると、アラーム インターフェイスはアラームを選択されたモニタ (SDI トレースなど) に送信します。モニタは、アラームを転送するか、または、最終的な宛先 (ログ ファイルなど) に書き込みます。



ヒント

リモートの syslog サーバには、他のサーバからの syslog メッセージを受信できない Cisco Unified CallManager ノードを指定しないでください。

Cisco Unified CallManager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の Trace and Log Central オプションを使用して、SDI トレース ログ ファイルまたは SDL トレース ログ ファイルに送信されるアラームを収集します。RTMT で SysLog Viewer を使用して、ローカルの syslog に送信されたアラームを表示します。

アラーム定義は、アラーム メッセージの内容を説明するものです。つまり、メッセージの意味とその回復方法を示します。アラーム情報は [Alarm Message Definitions] ウィンドウで検索します。サービス固有のアラームをクリックすると、アラーム情報 (ユーザが追加したユーザ定義テキストを含む) の説明とその推奨処置が表示されます。

アラームの設定

トレースとトラブルシューティングで使用するアラームの情報を設定します。特定の1つのサーバにある Cisco CallManager および Cisco CTIManager などのサービスに対してアラームを設定することも、クラスタ内の全サーバ上の特定のサービスに対してアラームを設定することもできます。

個々のサービスのアラームおよびモニタ宛先について、アラームのイベント レベル (Error など) と宛先 (ローカルの syslog の場合の Syslog Viewer など) を選択します。イベント レベルの選択により2つのタスクが完了します。1つは、Cisco Unified CallManager が収集するアラームのタイプを管理者が絞る際に役立ちます。もう1つは、イベント ログ、Syslog、およびトレース ファイルが過負荷になることを防ぎます。

アラーム定義

Cisco Unified CallManager では、アラーム定義と推奨処置が SQL サーバ データベースに保存されます。システム管理者は、すべてのアラーム定義をこのデータベースで検索できます。定義の内容には、アラーム名、記述、説明、推奨処置、重大度、パラメータ、モニタなどがあります。この情報は、システム管理者が Cisco Unified CallManager に発生した問題をトラブルシューティングするときに役立ちます。

Serviceability アラーム定義を使用すると、管理者はアラームに関する説明や推奨手段を追加できます。すべての管理者は、追加された情報にアクセスできます。管理者は、[Alarm Information] ウィンドウの [User Defined Text] ボックスに直接情報を入力します。標準の水平および垂直のスクロールバーを使用してスクロールできます。Cisco Unified CallManager Serviceability がその情報をデータベースに追加します。

アラーム情報の表示

アラーム情報を表示すると、Cisco Unified CallManager に問題があるかどうか判別できます。アラームの表示方法は、アラームの設定時に選択した宛先によって異なります。SDI トレース ログ ファイルまたは SDL トレース ログ ファイルに送信されるアラーム情報を表示するには、RTMT の Trace and Log Central オプションを使用するか、テキストエディタを使用します。ローカルの syslog に送信されるアラーム情報を表示するには、SysLog Viewer を使用します。



ヒント

リモートの Syslog メッセージは、CiscoWorks2000 レポート ビューアを使用して表示することもできます。

アラーム設定のチェックリスト

表 3-1 に、アラームを設定する手順の概要を示します。

表 3-1 アラーム設定のチェックリスト

設定手順	関連する手順と項目
ステップ 1 アラーム情報を取得する対象のサーバとサービスを選択します。	アラームの概要 (P.3-2) 『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「サービスに対するアラームの設定または更新」
ステップ 2 アラームの宛先を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> すべてのサービスを SDI ログに送信できる（ただし、トレースでも設定が必要）。 すべてのサービスを SysLog Viewer に送信できる。 リモートの syslog サーバに syslog メッセージを送信するには、宛先の Remote Syslog をオンにして、ホスト名を指定する。 Cisco CallManager と Cisco CTIManager だけが SDL ログを使用する。 	『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「サービスに対するアラームの設定または更新」 『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「アラーム宛先の設定」
ステップ 3 アラームのイベント レベルを選択します。	『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「サービスに対するアラームの設定または更新」 『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「アラーム イベント レベルの設定」
ステップ 4 必要に応じて、アラームに宛先を追加します。	『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「アラーム定義」
ステップ 5 アラーム宛先に SDI トレース ファイルまたは SDL トレース ファイルを選択した場合は、RTMT の Trace and Log Central オプションを使用してトレースを収集および表示します。	『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「RTMT のトレース収集とログ集中管理」 『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「Local Browse の使用」 『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「Query Wizard の使用」
ステップ 6 アラーム宛先にローカルの syslog を選択した場合は、SysLog Viewer でアラームを表示します。	『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「RTMT SysLog Viewer の使用」
ステップ 7 対応するアラーム定義の説明と推奨処置を参照します。	『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「アラーム定義の表示およびユーザ指定の記述の追加」

参考情報

関連項目

- 『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「サービスに対するアラームの設定または更新」
- 『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「アラーム定義の表示およびユーザ指定の記述の追加」
- 『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「アラーム定義のカatalog記述」
- 『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「RTMT のトレース収集とログ集中管理」

